

D-SCAN

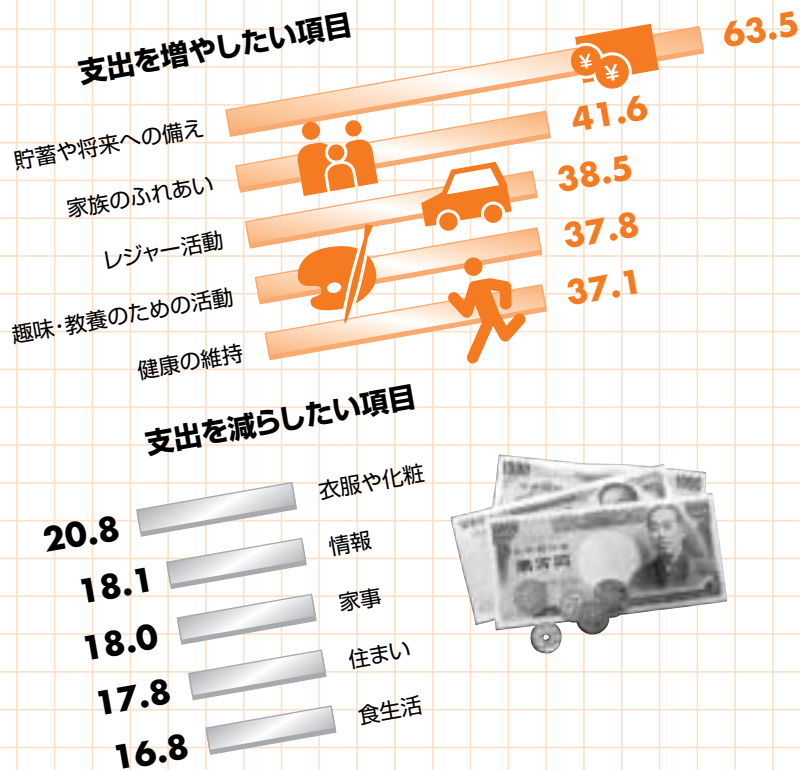
大広・生活者情報総合データベース

2000/06

マネーライフ篇

「将来に備えてもっと貯めたい」+「交・遊・学・健には積極的に投資」

図1



CONTENTS

積極的投資&運用の気運も高まる、
2000年のマネーライフ

家計見通しと生活領域別投資意識

住宅取得予算、教育費

預貯金・資産

金融機関の選定と利用状況

マネーライフは自己責任の時代へ

積極的投資&運用の気運も高まる、2000年のマネーライフ。

家計見通しと生活領域別投資意識

●40代、50代は今年の家計にきびしい見方

D-SCAN (以下同データ)によると、「2000年の家計見通し」を「悪くなる+やや悪くなる」と思う人は38.6%で、「良くなる+やや良くなる」と思う人の10.5%を大きく上回った。年代でみると、悪くなると思う比率が最も高いのは40～49歳(50.2%)で、50～59歳(46.7%)、30～39歳(41.8%)と続いた。(図2)

●貯蓄・交流・健康・自己投資にはお金をかけたい

「支出を増やしたい生活領域」は、「貯蓄や将来への備え」(63.6%)、「家族のふれあい」(41.6%)、「レジャー活動」(38.5%)、「趣味・教養のための活動」(37.8%)、「健康の維持」(37.1%)がベスト5。将来に備えると同時に、くつろぎ、健康、自分磨きにはお金をかけようという積極的消費意欲がうかがわれる。(図1)

●ファッションや消費財は節約したい

「支出を減らしたい生活領域」は、「衣服や化粧品」(20.8%)、「情報」(18.1%)、「家事」(18%)、「住まい」(17.8%)、「食生活」(16.8%)など。増やしたい領域の多くがサービス消費に関わるものであるのに対して、減らしたい領域は消費財に関わるものが目立つ。(図1)

●家具、園芸にお金をかける60代女性

「お金をかけている生活領域」では、「かなりお金をかけている」と思う人の比率が高い領域は「旅行」「飲酒」「外食」「衣服」「自分の学習」が上位5。各領域で「お金をかなりかけている」と思う比率が最も高いクラスター(性別年代)は表の通り。最近ようやく日本でも熟年マーケティングが立ち上がってきたが、この結果からも可処分所得と消費意欲の高いアクティブシニアへの積極的アプローチの重要性が見えてくる。(表3)

図2 家計の見通し

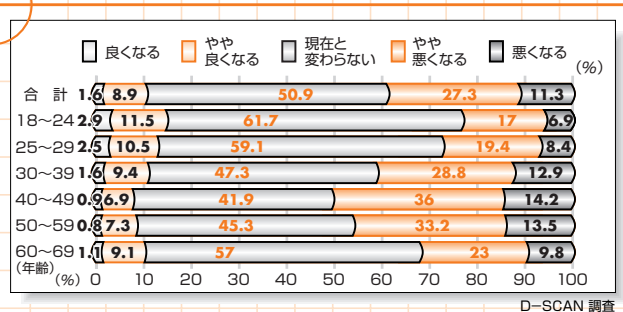


表3 各生活領域で「お金をかけている」と思う比率が高いクラスター

AVライフ	18~24歳男性	外食	25~29歳女性
スポーツライフ		旅行	
		自分の学習	
衣服		飲酒	40~49歳男性
身の回りのおしゃれ	18~24歳女性	ペット	50~59歳男性
化粧品		料理	50~59歳女性
スキンケア		ガーデニング	
パソコンライフ	25~29歳男性	家具・インテリア	60~69歳女性
カーライフ		入浴ライフ	

住宅取得予算、教育費

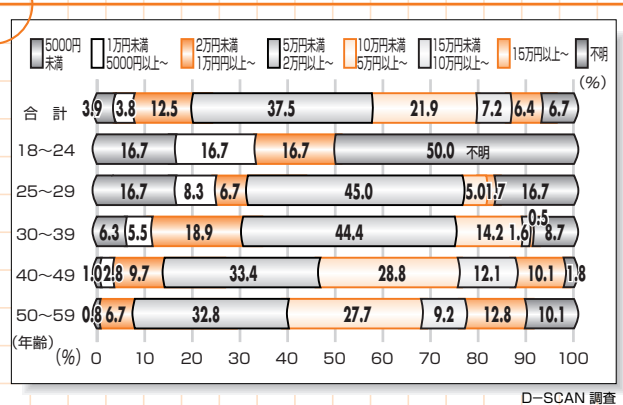
●持ち家は4,000万円までで押さえたい

「持ち家取得の予算」として考えている額は、「3,500～3,999万円」「3,000～3,499万円」「～2,999万円」の順に多い。「わからない」を除くと55%が4,000万円以内、76%が5,000万円以内を予算としている。また60歳代の11%が6,000万円台の持ち家を考えているのが注目される。

●家計にずっと教育費、40代～50代

「1ヶ月当たりの子供(全員)の教育費」の平均額は1ヶ月51,810円。年代でみると、最も教育費がかかるのは50歳代の73,770円、次いで40歳代の64,580円。60代でも42,500円かかる。(図4)

図4 1ヶ月当りの教育費



預貯金・資産

●84%の人が「貯蓄が足りない!」

「貯蓄・財産の充足度」では、「十分+だいたい十分」が14.9%、「全く不十分+やや不十分」が84.4%で、まだまだ貯蓄が足りないと感じている人が圧倒的という結果になった。最も不十分感が高いのは18～24歳層で88.6%。消費も活発だが、貯金の必要性も強く認識しているようだ。(図5)

●貯金額は平均572万円

「現在の預貯金額」は、平均で572万円。男女では男性539万円、女性608万円と女性のほうがややお金持ち。年代別では60歳代=1,171万円、50歳代=855万円、40歳代=674万円、30歳代=401万円、25～29歳=246万円、18～24歳=175万円。最も預貯金が多いのは60歳代女性の1,177万円。(図6)

●備え、老後資金、教育資金が貯金3大目的

「預貯金の目的」は、「病気や災害などの備え」(41.7%)、「老後の生活資金」(35.3%)、「子供の教育資金」(31.1%)、「特に目的はないが安心のため」(28%)、「旅行・レジャー資金」(25.5%)が上位5項目。18～24歳と25～29歳では安心のため、レジャー、高額品の購入が3大目的。50代と60代では老後資金、病気等の備え、レジャーが3大目的。30代、40代は教育資金、病気等の備えが共通で、30代は住宅取得、40代は老後資金が入って各3大目的に。(図7)

金融機関の選定と利用状況

●中高年女性は郵便局を利用

「利用している金融機関(口座を持っている)」は、「都市銀行」(81.8%)、「郵便局」(67.7%)、「信用金庫・信用組合」(37.9%)が上位3機関。郵便局は女性の76%が利用しており、とくに40代以上の利用は8割を越えている。(図8)

●金融機関は知名度、利便性、安定性で選ぶ

「金融機関の選定のポイント」は、「よく名前が知られていること」(69.9%)、「自宅や職場の近所にあること」(65%)、「安定性があること」(56.5%)がベスト3。年代別に特徴をみると、18～24歳は知名度と家族友人の評判を、25～29歳は近所という利便性を、30歳代と40歳代は顧客の立場に立った提案性を、60歳代は職員の業務知識の豊富さと伝統を、それぞれ他の年代より強く意識している。(図9)

図5 貯蓄・財産の充足度

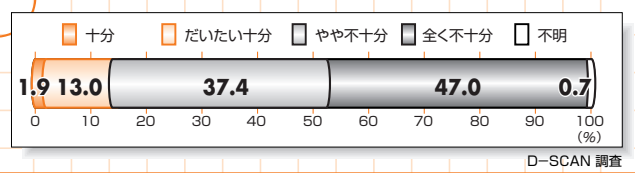


図6 預貯金額

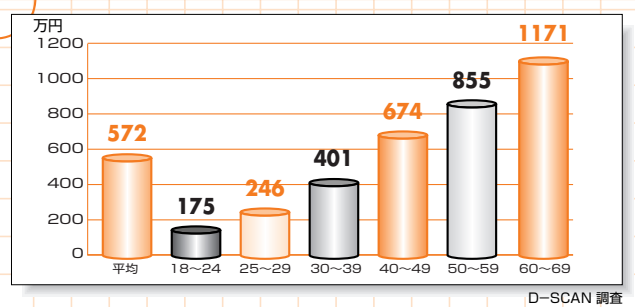


図7 預貯金の目的

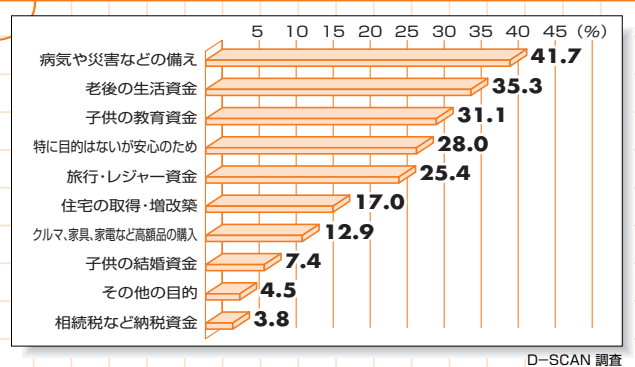


図8 利用金融機関

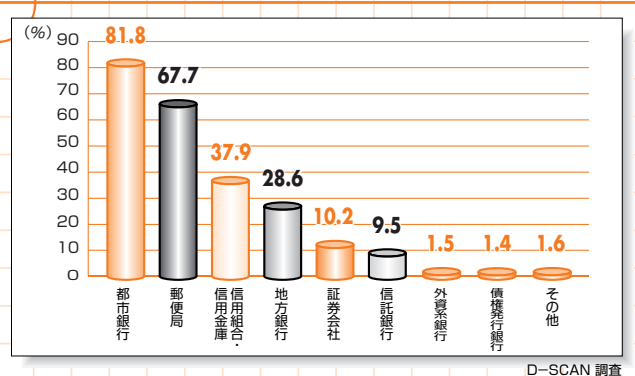
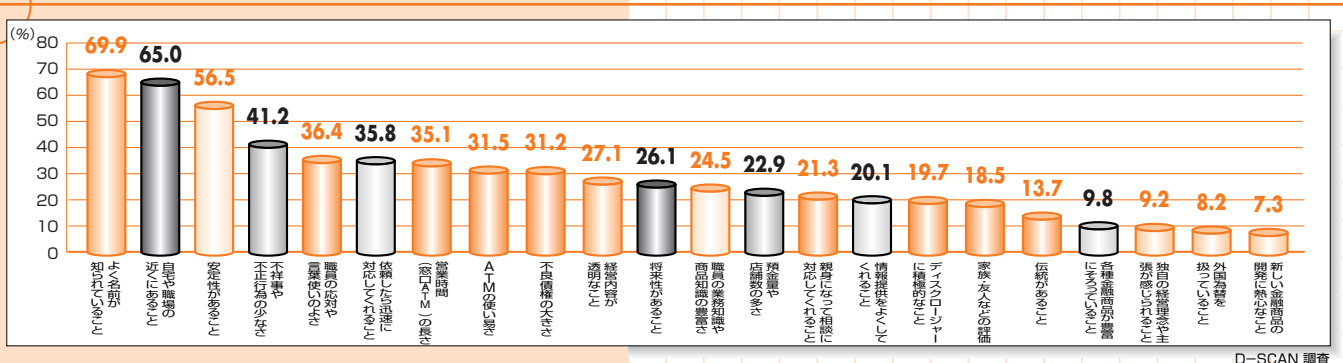


図9 金融機関の選定のポイント



マネーライフは自己責任の時代へ

●生活防衛の姿勢を堅持

2000年3月期決算は、通信、情報関連企業が好調で製造業も最悪期を脱した。設備投資や企業業績は回復の兆しが見えている。しかし個人消費は低迷が続き、失業率も高水準で推移している。社会保障など将来への強い不安感から、消費者は基本的には生活防衛の姿勢を崩してはいない。

お金の使い方について

衣料品1カ月の費用	平均	11,908円
化粧品1カ月の費用	平均	5,349円
出先のランチ1回の費用	平均	710円
ディナー1回の費用	平均	3,042円
家庭用電話代1カ月の費用	平均	8,071円
携帯・PHS1カ月の費用	平均	8,068円

(D-SCAN 調査)

●交流、旅行、学校、健康---4つの「コウ」が需要を生む

しかし貯蓄にはげむ一方で、家族とのふれあいやレジャー、趣味教養、健康の維持などには積極的にお金をかけていこうという意欲がD-SCANから見えてきた。すべての領域を引き締めるのではなく、合理的に支出を配分し、日々の暮らしの充実や自己向上には投資を惜しまない。健康な心身や多面的な能力は、不透明な時代の最大の財産。このような生活意識の潮流を需要に結びつける方策が求められる。

●積極的な資産運用の気運も

日本の個人金融資産は1,300兆円。にもかかわらず貯蓄・資産の不十分感は年代を問わず強い。ゆえに、これまでの生活情報は「徹底的な節約ノウハウ」と「いかに貯めるか」が主役であった。ところが最近では、積極的に資産を運用しようという気運が高まっている。「金利も安いし金融機関の経営も不安。もっと金融商品を研究しなくては」という人が増えているのだ。投資信託やインターネット取引への関心も高い。

●自分で選び自分で責任を負う

この秋から導入される確定拠出型年金(日本版401K)は、掛け金の運用実績次第で将来の年金額が変わる新しいタイプの年金制度。高い利回りが期待できる反面、運用に失敗すると損失をこうむる「自己責任」が原則となる。高齢社会に向けた医療・年金などの改革やペイオフ解禁など、個人も自分の手で人生の設計図を描き資産管理の責任を負う時代になってきた。2000年は自己責任マネーライフ元年ともいえよう。

D-SCANのご紹介

「D-SCAN」は、生活者に関する情報の総合データベースを目指す取り組みです。「D-SCAN」はCORE調査をベースに、大広独自のデータを加味したものです。「CORE」調査は、(株)リサーチアンドディベロップメント社が毎年実施している生活者意識調査で、今年で17年のデータ蓄積があります。調査内容は生活領域全般にわたっており、ACR調査やTBS総合嗜好調査にない今後の考え方や態度の意向を直接尋ねています。また、このデータは、広告会社では当社だけが活用できるものです。最新調査CORE2000の調査仕様は右記の通りです。

●D-SCANの利用について

D-SCAN調査は、クライアントのニーズに合わせて特別集計をすることができます。

[CORE2000 調査仕様]

- (1) 調査地域／首都圏40km圏内
- (2) 調査対象／18～69才の男女個人
- (3) サンプル数／3,000サンプル(有効回収)
- (4) 抽出方法／3段確率比例抽出法
※サンプリング名簿:住民基本台帳
- (5) 調査日程／実査:1999年10月